

エクス・ノーヴォ  
vol.23



# スタ バト マーテル

悲  
し  
み  
の  
聖  
母

ジョヴァンニ・バッティスタ・ペルゴレージ  
《スターバト・マーテル》

PERGOLESI, Giovanni Battista (1710-1736)  
Stabat Mater dolorosa (1736)

ソプラノ独唱：阿部早希子  
アルト独唱：村松稔之  
(カウンターテナー)

アントニオ・マリア・ボノンチーニ  
《スターバト・マーテル》  
〔日本初演〕

BONONCINI, Antonio Maria (1677-1726)  
Stabat Mater dolorosa

ソプラノ：岡崎陽香・小川美羽  
アルト：木下泰子・新田壮人  
テノール：鏡貴之・前田啓光・山中志月  
バス：金子慧一・目黒知史・藪内俊弥

ヴァイオリン：池田梨枝子・高橋亜季  
廣海史帆・宮崎蓉子  
ヴィオラ：伴野剛・中島由布良  
チェロ：懸田貴嗣・高橋麻理子  
ヴィオローネ：櫻井茂  
オルガン：新妻由加

指揮：福島康晴

シリーズ

# 1

2026年

5月23日(土)

14:00 開演 / 13:30 開場

**HAKUJU HALL**

前売 5,500円 / 当日 6,000円

U-30 (29歳以下) 2,500円 (要予約・ムジカキアラのみ取り扱い)

助成・アーツカウンシル東京 [東京芸術文化創造発信助成 (単年助成)] 芸術創造活動 ARTS COUNCIL TOKYO

後援・イタリア文化会館 日本イタリア古楽協会 協賛・Hakuju Hall / 株式会社白寿生科学研究所

主催・一般社団法人エクス・ノーヴォ マネジメント・ムジカキアラ



チケット予約&お問い合わせ・ムジカキアラ 03-6431-8186 (平日 10-18時) info@musicachiara.com

その他チケット取り扱い・パスマーケット <https://passmarket.yahoo.co.jp/>

イープラス <http://eplus.jp>

《スターバト・マーテル 悲しみの聖母》は、キリストの死を眼前にした聖母マリアの嘆きに寄り添い、その深い悲しみをともに分かち合う祈りの歌です。中世に生まれたこのラテン語詩は、グレゴリオ聖歌に始まり、ルネサンス、バロックへと時代を超えて、多くの作曲家たちを魅了し続けてきました。

数多くの名曲が生まれてきたこのテキストによる作品から、エクス・ノーヴォでは今年、2回にわたって4人の作曲家（ペルゴレージ、ボノンチーニ、ダストルガ、ボッケリーニ）の《スターバト・マーテル》に焦点を当てます。

今回は、その中でもとりわけ名高いペルゴレージの《スターバト・マーテル》と、ボノンチーニ一家のジョヴァンニ・マリアを父に、ジョヴァンニ・パティスタを兄にもつアントニオ・マリア・ボノンチーニの作品を、日本で初めてご紹介します。

天逝の天才ペルゴレージが、わずか26年という短い生涯の最晩年に完成させたと言われるのが、この《スターバト・マーテル》です。あまりにも美しすぎる終曲〈肉体が減びるとき Quando corpus morietur〉は、彼の短い人生そのものと重なり、聴く者の胸に深い感動を呼び起こします。

一方、アントニオ・マリア・ボノンチーニの《スターバト・マーテル》は、ソロを交えた四声部合唱と弦楽器による編成で書かれ、声部の組み合わせやオーケストレーションにおいて随所に工夫が凝らされた、きわめて完成度の高い作品です。ボノンチーニ一家の中でも演奏機会の少ない作曲家ではありますが、その豊かな音楽的魅力が、いま日本でついにヴェールを脱ぎます。



## 福島康晴 〈指揮〉

東京音楽大学大学院作曲科修了。大学院修了後バロック音楽に傾倒し、声楽を故牧野正人氏に師事する。2006年より渡伊。イタリア・ミラノ市立クラウディオ・アッパード音楽院古楽科にてルネサンス・ポリフォニーをD.フラテッリ氏の下で学び、2009年ミケランジェロ・グランチーニ(1605-60) 研究の論文及びコンサートをもって最高点・褒賞付きで修了。また、自らアンサンブル・グランチーニを結成し、その生演奏はイタリア公共放送「Rai Radio 3」にて放送された。2008年《ドン・ジョヴァンニ》が初演されたブラハのエステート劇場にてモンテヴェルディ《オルフェオ》の牧人役でデビュー。その後、イタリアの主要な古楽グループと共演を重ねる。同時に指揮科にも在籍し、E.ポマーリコ、R.リヴォルタ、杉山洋一の各氏に師事。2012年に帰国し、イタリア・バロック音楽を中心に演奏するエクス・ノーヴォを立ち上げ、主宰及び指揮者として活動。また、後期ルネサンスから初期バロックにかけての音楽理論に精通し、当時の理論書からひもどく音楽理論セミナーを多数実施。アマチュアのオーケストラや合唱団の指導も精力的に行っている。洗足学園音楽大学非常勤講師、フォンス・フローリス古楽院、日本合唱指揮者協会コーラスアカデミー講師、日本イタリア古楽協会会長。



阿部早希子 *soprano* 村松稔之 *alto*

## 古楽アンサンブル エクス・ノーヴォ

16～17世紀イタリアの聖歌隊を範とし、各パート1人から3人という少数精鋭の歌手と、オルガンを中心としたピリオド楽器の奏者が結集したプロフェッショナルな団体。イタリア音楽、それも後期ルネサンスからバロック時代にかけての宗教曲をレパートリーの中心に据え、コンサートで取り上げる作品は、必ずそのオリジナル印刷譜または手稿譜を研究し、当時の音楽理論書も参照しながら演奏を構築する。ヨーロッパでは頻りに演奏されるけれども日本ではあまり取り上げられない作品、ヨーロッパの古文書館に収められたまま、まだ演奏されていない未知の作品、そして、既にレパートリーとして定着しているけれども演奏法を再考する必要があると思われる作品を「初めから作り直す EX NOVO (ラテン語)」ことを掲げ2014年に誕生した。



岡崎陽香 *soprano* 小川美羽 *soprano* 木下泰子 *alto* 新田壮人 *alto* 鏡貴之 *tenore*



前田啓光 *tenore* 山中志月 *tenore* 金子慧一 *basso* 目黒知史 *basso* 藪内俊弥 *basso*



池田梨枝子 *violino* 高橋亜季 *violino* 廣海史帆 *violino* 宮崎蓉子 *violino* 伴野剛 *viola*



中島由布良 *viola* 懸田貴嗣 *violon-cello* 高橋麻理子 *violon-cello* 櫻井茂 *violone* 新妻由加 *organo*

## 開 HAKUJU HALL



【電車】  
代々木公園駅(千代田線) 出口1より 徒歩5分  
代々木八幡駅(小田急線) 南口より 徒歩5分

【バス】  
渋63(中野行) 渋64(中野行) 渋66(阿佐ヶ谷行) 渋69(笹塚循環)  
渋谷駅西口バスターミナルより10分「富ヶ谷」停留所下車徒歩1分